

千載 住なれしやどをば出て西へ行月をしたひて山にこそいれ 平実方

鷹司院たかつかさの按察使西山にて世を遁待けるを歎てつかはしける

続古今 西へ行月はたのみも有ながら心のやみのはれがたの世や 修明門院大貳

かへし

入かたをうき世のほかになぐさめて月に心のやみははるけき

長法寺ちやうはふじ

〔粟生光明寺あはふくわうみやうじより三町ばかり南にあり。又村の名ともなづく。天台宗にして、本尊は觀世音、坐像一尺余。

開基は千觀法師くわんなり。当寺の什宝に唐筆の涅槃像ねはんあり、其形絹地にして、豎七尺許、横四尺五六寸、図する所は釈迦しやか如来涅槃に入給ふ後、再び金棺より出て光明を照し給ふを、菩薩羅漢ぼさつらかん四衆しゆうてうじう鳥獸等群拜する体相なり。これは釈迦しやか佛御母夫人の為に出現し給ふなり〕

摩耶夫人經曰

阿那律升ニ利天ニ以告ニ摩耶夫人一。摩耶自レ天而下。棺自為レ開。世尊起合掌曰。遠屈ニ下来一。復語ニ阿難一曰。汝当レ知為ニ後世不孝衆生一。故從ニ金棺一出問ニ訊於母一。（已上仏祖統紀。）

立願山楊谷寺

〔柳谷にあり、前編に出すといへども画図遠景ゆへ今又細書してこゝに著す。本尊は千手観音、立

像にして長六尺なり。脇士は將軍地藏毘沙門天の立像なり。当寺は白河院御宇に水観上人此地に閑棲し給ひ、此本尊を感得し給ふ〕

楊柳水

〔本堂のうしろにあり、眼疾に此水を得て洗へば忽平癒の靈驗あり〕

独鈷水

〔同所にあり〕

夫婦石

〔門前一町ばかり行く路のかた、左の溪川にあり、由来詳ならず〕

浄土谷

〔柳谷の奥十町余にあり。民家ありて村の名とす、土人浄谷といふ。むかし恵心僧都こゝに閑居し給ひ、浄業を修し給ふ所なり〕

浄土山乘願寺

〔同所民家の中にあり、今総堂となす。本尊は阿弥陀仏にして坐像八尺の長なり、恵心僧都の作〕

鎮守社

〔堂のひがしにあり。祭神、伊勢、賀茂、八幡、稲荷。土人生土神とす。例祭は九月九日なり〕

〔当寺は恵心僧都の開基にして、伽藍あり。中頃荒廢して今其跡田畠の字のみ残れり。釈迦堂、観音壇、欄杆房等の名あり〕

石鑄大日如来像〔同所ひがしの方岩洞に安ず〕

安養谷〔同所東にあり〕

丹屋谷〔同じき西のかた二町ばかりにあり。名義詳ならず〕

行道石〔同所にあり、恵心僧都時々こゝに来て行道持念したまふといふ〕

院墓〔同村西の山上にあり。伝云、いにしへ天子陵とぞ〕

仏谷〔奥海印寺村の西の谷をいふ。谷口に仏像の如きなる岩あり、故に名づくるなり。此所の東西に寺院の字あり、

勝楽寺、多門寺、往生院等なり〕